



口絵 5 嵯峨本『伊勢物語』「芥川」(実践女子大学図書館黒川文庫蔵)

目次

地下水脈の探求

——『伊勢物語』の絵巻・絵本と絵入り版本——……………山本登朗 1

伊勢物語絵の異段同図法

——二条の后に関する段——……………岩坪健 29

木の下で鳥を指さす人

——和歌の視覚・絵巻の聴覚——……………菊地仁 55

夕霧の物語、徳川・五島本「源氏物語絵巻」とその変容…

原岡文子 77

源氏絵の変容

——物語と読者の狭間で——……………中川正美 107

絵画の中の〈泣く〉しぐさ考

——佐竹本三十六歌仙絵と国宝源氏物語絵巻を中心に——……………久下裕利 131

枕草子「香炉峯の雪」章段の絵画の軌跡と変容……………浜口俊裕 155

《資料紹介》

物語絵ひとつの形象……………横井孝 193

——実践女子大学文芸資料研究所蔵『伊勢物語の哥絵』——……………上野英子 193

あとがき——歌仙絵の継承と変容……………久下裕利 211

地下水脈の探求

——『伊勢物語』の絵巻・絵本と絵入り版本——

山 本 登 朗

一 「チェスター・ビーター図書館本系統」の発見

平成十九年九月に『伊勢物語絵巻絵本大成』（羽衣国際大学日本文化研究所編・角川学芸出版）が刊行された。この『絵巻絵本大成』刊行をめざして、さまざまな国内外資料の調査を含む共同研究が続けられたが、その中でもっとも印象的だったのは、「チェスター・ビーター図書館本伊勢物語絵本」についての成果である。アイルランド・ダブリンのチェスター・ビーター図書館に所蔵されているこの絵本は、絵が描かれた画面の上半部に本文が書かれているという古い絵巻の形式を残した、個性的な魅力を持った大型の絵本で、室町時代末期から江戸時代初期の成立と考えられるが、従来は同類本の存在が知られておらず、特異な存在のように扱われることが多かった。近年、川崎博氏は、「嵯峨本伊勢物語」のいくつかの挿絵の図様がこの「チェスター・ビーター本」と一致することから、その背後に「チェスター・ビーター本

## 一、関守の段と芥川の段

定家本『伊勢物語』で第五段は関守の段、第六段は芥川の段である。まず、江戸時代に数多く刊行された版本の挿し絵に大きな影響を与えた嵯峨本の図を取り上げ、両段の絵の特徴を確認する。図1は関守の段で、崩れた土塀と居眠りしている番人が、当図のモチーフである。それは物語本文の「築地の崩れ」「関守はよひよひごとにも寝ななむ」に対応している。図2は芥川の段で、「女を背負う」(柳)とあるだけで、柳や背負うという記述はないが、その図様は嵯峨本の独創ではなく、前代からの継承である。たとえば、原本は鎌倉時代に成立したと推定されている異本伊勢物語絵巻には、すでに女を背負う男が描かれ、それは室町時代の絵巻や絵本にも受け継がれた。

江戸時代前期に制作された甲子園学院美術資料館本絵巻(注(4)の著書に収録)にも、崩れた土塀と女を背負う男が見られる。ところが両者の絵の間には詞書がなく、両図は一枚の料紙に描かれ連続しているため、まるで「築地の崩れから、たった今、女を盗んで抜け出して来たように見える描き方」である(注(4)の著書、研究編の一七八頁。田中まさ氏の解説)。

第五段、第六段はともに画面を余白が広く占めており、その余白には築地を境にして霞が両段にまたがるように懸かる。これによって両図は空間的な関連付けがなされ、鑑賞者の視線は両段を連続した図として追うことに不自然を感じることがない。内容が関連する第五段、第六段の画面をつなげるこ

とによって、業平と二条后と思しい主人公たちの恋の行く末が連続した話として、より明瞭に伝わるような場面設定といえる(注(4)の著書、研究編の一七六頁。河田昌之氏の解説)。

当絵巻は他にも、「異なる章段の絵を一図に合体させて描いている絵」があるので、第五・六段もその一例と見なせる。ただし当絵巻は、第三・六段の本文を続けて記してから第五・六段の絵を置くので、たまたま両段の図が続くように見えるだけかもしれない。しかしながら、この「ふたつの図様が合体している例は比較的多く見られる」のである。以下、その具体例を取り上げる。

菱川師宣(？)一六九四年没)が描いたと推測される「花鳥風俗画帖」(心遠館コレクション)は、一冊に



図1



図2